

特定非営利活動法人

ACN REPORT

NO21.2004.AUG
AQUA CULTURE NETWORK

つくり育てる漁業・人と技術のネットワーク

ACNレポート第21号

2004年8月01日発行(毎年2回)1月8月発行)

編集:NPO法人ACN事務局

発行人:田嶋猛(NPO法人ACN代表)

発行所:NPO法人アクアカルチャーネットワーク

〒833-0056

福岡県筑後市久富1343番地

クロレラ工業株式会社 開発事業本部技術販売部内

TEL0942-52-1261 FAX0942-51-7203

CONTENTS

種苗生産速報	「2003年9月～2004年8月」ACN総評	1
養殖概況	「一般概況」中谷充利/日清丸紅飼料㈱	3
防疫概況	藤原和宏/㈱サン・ダイコ	4
新入会員企業紹介	エービイ商事㈱エンジニアリング部	5
新製品紹介	定流量弁 ㈱田中三次郎商店	
ご挨拶	残暑お見舞い	6



養殖用種苗生産速報

ACN・総評

2003年9月～2004年8月

主要魚種減少の状況下にあって近畿大学の総合力が注目を集める。

1. マダイ

真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛

種苗生産は3年連続減少するが、成魚価格回復傾向も頭打ち

養殖用種苗出荷尾数は4,000万尾(生産尾数4600万尾 民間27社の推定尾数)で昨年より900万尾(18%)・5業者減少し、直近3年間で稚魚の出荷尾数は45%減少したことになる。年末から価格上昇の傾向がみられ1.5kgUPの大型魚の浜値は650～700円/kgと上昇しているものの1kgサイズは500～550円/kgで横這い状態が続いている。

場の体力向上にはもう少し時間がかかりそうである。そのような事情を反映してか種苗業者自身や養殖業者に委託しての夏越した仔の生産も当たり前になっており、養殖業者の体力低下がもろに種苗業者の負担になってきている。このところ高い評価の近畿大学の出荷尾数は約800万尾であった。稚魚価格は東高西低の模様で四国での価格は9～10円/cmであったが九州では混乱していた。

2. トラフグ

虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚

早期物は順調に推移するが終盤は低調、中間魚に注目

養殖用種苗出荷尾数は1,110万尾(生産尾数1,305万尾 民間24社・公共2事業場の推定尾数)で昨年より240万尾(18%)減少した。早期ものは南宇和など水温条件の良好地域のみならず長崎など低水温海域でも導入した。陸上養殖はホルマリン問題以降急増傾向にありヒラメ陸上養殖業数社が新規にトラフグを導入した。

種苗価格は昨年12月までの超早期物の浜値は105～110円/尾、サイズ6cm up、年明けから100～105円/尾と5円安となっている。昨シーズンに比べると大幅な値引きもなく堅調に推移し5月中旬には不足気味になり6月の出荷が期待されたもの

尻すぼみ状況で7月半ばに種苗出荷は終了した。海面養殖の歩留まり低下は深刻になっており、それに伴い中間魚の需要は活発であった。昨年11月出荷の中間魚浜値は550～660円/尾 サイズ250～300g/尾(キロ単価2,200円)。

昨年に比して種苗導入数が減少した要因として①種苗業者の廃業による種苗供給量の減少 ②養殖密度低下による導入量減少 ③中国産中間魚の輸入増による国産需要減が考えられる。一方で国内種苗業者への11月出荷の中間魚注文が増加する傾向がある。

3. ヒラメ

平日平日平目平目平目平目平目平目平目平目平目平目平目平目平目平目平目平目
成魚荷動き悪く、種苗導入数量は更に減少か

年内(9月から12月末)のヒラメ稚魚の出荷尾数は約250万尾であり通期の養殖用種出荷尾数は800万尾(生産量860万尾・民間22社の推定尾数)と昨年より150万(16%)減少し最低記録を更新した。

平成5、6年頃の経営体数70社、出荷尾数約2300万尾と比べると双方とも1/3に激減したことになる。

統計上の養殖生産量は平成9年の8,500トンがピークで平成14年には6200トンに減少しており養殖業者・種苗業者の魚種転換・廃業の傾向が更に加速していることが推測される。

稚魚の価格は7cm upが主流で浜値85~80円/尾

尾で始まり12月で5円安、年明けの3~4月で70~65円/尾であった。成魚浜値が1200~1400円/kgと低迷していることから数社が生け簀の一部にトラフグを導入した。

韓国産ヒラメの現地浜値は、9,500~11,000 Won(950~1,100円)であり韓国養殖業者も経営的に限界状態で忠武、麗水方面では廃業する業者もあり、養殖中核地域として済州道が益々クローズアップされてきている。ここ数年の日韓双方のヒラメ養殖業者の我慢比べ状態はまだしばらくは継続しそうである。

4. シマアジ

順調な生産、種苗導入一段落後の様子見

ここ数年の種苗供給量不足を反映してシマアジは唯一人気魚種となっており、今シーズンも各社が一斉に年内採卵し種苗生産を開始。

VNN等の重大なトラブルもなく沖だしは順調であった。

養殖業者サイドはいち早くこの情報を入手、2年後の成魚価格の下落を懸念して昨シーズンまでのような活発な引き合いはなかったものの、潤沢な種苗量を反映して養殖用種苗出荷数は420万尾(生産尾数650万尾)

民間7社・公共2事業場の推定尾数)と昨年より110万尾(35%)増加。

種苗導入量が500万尾以内ということで2年後の成魚価格下落の懸念はひとまず払拭されたようである。

近畿大学が150万尾出荷したことが注目される。一方、種苗場にてイリドワクチンを接種し中間育成しているものもあり、その動向も注目される。

5. アユ

比較的堅調な推移ながらも、価格維持への種苗対策を

アユの需要は減少傾向にあるものの、放流量は対前年度103%(平成15年度)養殖生産量は対前年度97%(平成15年度)となっている。放流で1,197トン・約1億2000万尾、養殖(成魚出荷)で8,000万尾(7,000トン生産・90g/尾として)合計約2億尾が出荷されている。もちろん病気の被害・他での減耗を考えれば、種苗段階では、20~40%増が流通していると思われる。

平成16年の傾向として放流は、琵琶湖産アユが減り人工種苗アユの需要が急激に高まったように思われる。この要因としては、冷水病対策、昨年来のコイヘルペスでの河川汚染予防、河川でのアユの再生産性の問題、民間・公共機関共に前シーズン豊作だった事が考えられ

る。

成魚出荷池でも、年明けの琵琶湖産種苗の供給量が少なかった事もあり人工種苗の流通が増加している。

一方、今シーズン築地などの市場流通価格が低迷しているが、人工種苗生産技術の発達により早い時期に大きなアユが出荷された事、春先に子持ちになってしまったアユが出回った事が、原因であるとの声も大きい。

この事から、価格安定のためには市場流通を重視した季節感のある春から秋の出荷時期に安定した成魚生産が可能な種苗生産が望まれる。

6. その他

ひれ物としてはイシダイ・オコゼ・カサゴ・クエ・マハタ・ブリ・カンパチ・ホシガレイ・マコガレイ・マツカワ・ウ

マズラ・スズキ・イサキ・クロソイ・ミルクフィッシュ等が生産されている。

(文中社名敬称略)

養殖概況

中谷 充利

日清丸紅飼料(株) 九州水産営業部

-なかたに・みちとし
1975年生まれ
1997年東京水産大学 水産学研究科(資源育成学)卒業
1997年4月 日清飼料㈱入社。水産飼料の営業職。
趣味はもちろん「釣り」



1 ハマチ

今年度のモジヤコ導入量は、不漁の影響で昨年度を若干下回り、相場も昨年に比べかなり高い水準で推移しました。成魚相場についても活発な需要による在庫の減少が影響し、回復してきました。その理由として、①出荷体制が氷〆から沖〆へと変化したこと、②飼料のEP化が進行したこと、③差別化生産物への取り組みが盛んに行われたこと、等が肉質の向上を促進し、それが市場に評価されたためであると考えられ、今後も堅調に推移していくと思われます。

一方生産サイドにおいても、ワクチン接種の普及が歩留り向上や薬剤使用量の減少など生産コスト低減と品質向上に大きく貢献しているものと思われます。更に魚病の心配が無く給餌に専念できるため、近年短期間で以前より大きな魚を生産できるようになった事もメリットとして挙げられます。如何に他の生産者と異なるサイズの魚を作るかという事も生き残りの戦略として各自模索しているように思われます。

新物の動きとしては、四国、鹿児島地区にて3kgアップで出荷が始まっています。相場も700円/kg台で推移しています。

2 カンパチ

今年度のカンパチ稚魚導入量は昨年より若干減少していると思われますが、最終的な尾数は中間魚次第であります。中間魚の導入は年々増加傾向にあり、今年も増加が予想されますが、最近の市況や価格的な問題がどのように影響するか微妙な状況であると思われます。

現在の成魚相場は、鹿児島で800円/kg前後と低迷しており、3才魚の在庫が依然残存していることも懸念されるところです。更に、8月より鹿児島地区にて新物の出荷が予想されることから、端境期がなくなり、今後の市況についてもなかなか期待が持てない状況であります。魚病については昨年同様、新型連鎖球菌(ストレプトコッカス)の発生が見られ、対策を余儀なくされています。

3 マダイ

マダイ稚魚導入量は長期にわたる相場低迷等の理

由により、昨年同時期に比べ1~2割ほど減少していると思われます。昨年より導入尾数は減少していますが、3年魚の在庫(1~1.2kg)も多く、大きな相場回復の兆しはまだ見えません。しかしながら、1.5~2kgサイズの魚に関しては、在庫も無いことから相場がかなり回復しており、今後のマダイ市場の好転に期待したいところです。

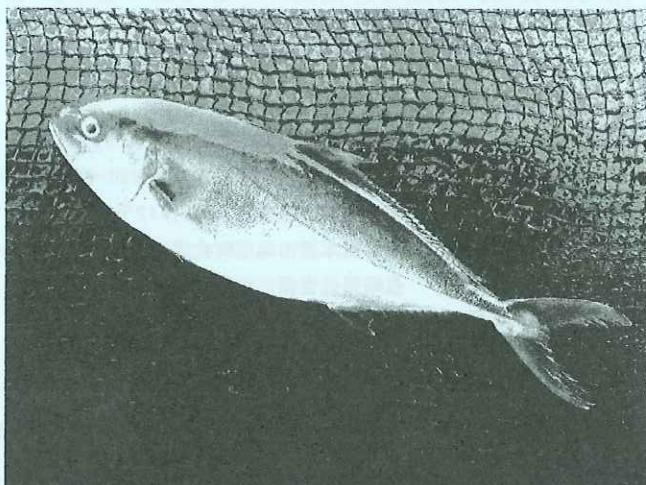
魚病については、依然エドワジェラ症による被害が大きく、対策が急務となっています。また、今年は水温の上昇が早く、イリドウイルスによる被害の増加が懸念されます。

4 トラフグ

ホルマリン使用問題等大きな問題がありました。昨年から今年にかけての成魚相場は、魚病による尾数減少等もあり、3,000円/kg前後(1kgもの)と堅調な価格で推移しました。昨年度の当歳魚における口白症の被害が大きく、今年度の出荷尾数はかなり減少するものと思われ、今後も堅調な価格が続くと思われます。

しかしながら、中国からの輸入物の増加が予想され、今後の輸入動向次第では相場が下落することも予想されます。また、種苗については、各養殖業者少しでも早く出荷サイズに仕上げるため、ホルモンを主体に導入する傾向があるようです。

今年度は、今のところ(7月現在)当歳魚の口白症による大きな被害はありませんが、今後の水温の上昇と共に発症する可能性があり、注意が必要です。



防疫

概況

概況・新薬情報

藤原 和宏

(株)サン・ダイコー 水産事業部

-ふじわら・かずひろ
1969年生まれ
鹿児島大学 水産学部卒業
入社11年目・水産事業部水産企画
担当
趣味「出張」(?)

近年のワクチン開発、普及で以前に比べ、養殖魚の歩留りは向上しています。
また、投薬回数も減少し、食の安全・安心の観点からも、ワクチンの普及は、今までの養殖魚のイメージを払拭することに貢献いたしております。

【魚病発生状況:2004年1~6月】

ハマチ (モジャコ)

: 今年は各地でベコ病が発生しており、斃死は少ないのですが、ワクチン接種時に撥ねた（選別）尾数が全体の10%近い生産者もおられました。

カンパチ

: 新型の連鎖球菌症が、例年に比べ発生時期が早く5月より発生。

トラフグ

: 春先からの水温上昇に伴い、頭部潰瘍症が発生し、例年に比べ割合が多い。

マダイ

: 春先からリンホシスチス症が発生。斃死は少ないので、餌食い低下や見た目が悪い為、選別時に撥ねたりすることで、増体、尾数確保に影響しています。

【対応困難な疾病】

α型レンサ球菌症、イリドウィルス症、ビブリオ病は、ワクチンの開発により、その発生を抑えることが可能になりました。その一方で、魚病発生状況でも記しました対応困難な疾病が発生しております。

前回のレポートで報告しました昨年夏からのモジャコの原因不明による大量斃死は、未だ原因が解らぬまま、時期を迎えるとしております。その他、ノカルジア症、寄生虫も増加傾向にあります。

水産事業部関係事業所

- 鹿児島支店 鹿児島県鹿児島市吉野町2430〒892-8511
- 鹿屋営業所 鹿児島県鹿屋市寿4-5-41〒893-0014
- 出水営業所 鹿児島県出水市六月田町412〒899-0126
- 天草営業所 熊本県本渡市亀場町食場友尻825〒863-0046
- 佐世保営業所 長崎県佐世保市広田2-195-1〒859-3223
- 佐伯営業所 佐伯市長島町1丁目13番14号〒876-0813
- 宇和島営業所 愛媛県宇和島市弁天町1-7-8〒798-0006
- 高知営業所 高知市南久保62(株)アステイス内〒780-0087
- 徳島営業所 徳島市論田町本浦上76番地(株)アステイス内〒770-8011

その他、ワクチン接種時に尾数をカウントする（尾数管理）ことにより、適正給餌量（給餌管理）等、養殖管理（経営）全般においてもワクチン効果は表れています。しかしながら、養殖現場におきましては、まだまだ対応困難な病気、斃死が発生している事も事実です。

また昨年は、過去それほど影響がなかったエドワジエラタルダ症がマダイに発生し、歩留り低下に影響しました。

何れも、特効薬が無く、現状ストレス緩和等の予防策しかなく、ご迷惑をお掛けいたしておりますが、今後更なるワクチン、新薬の開発と予防対策、情報提供の徹底に努めていきたいと思います。

【新薬情報】

すでにご存知の方も多いかと思いますが、フグ用医薬品として、寄生虫駆除剤（商品名：マリンバンテル、主成分：フェバンテル、製造販売元：明治製薬株式会社）が新発売されました。マリンバンテルは、ヘテロボツリウム症の治療薬として国内で承認された初めての経口投与剤です。

マリンバンテルの特長

- ① ヘテロボツリウムの未成熟虫だけでなく、成虫にも優れた駆虫効果を示します。
- ② 飼料に混ぜても安定です
- ③ 海水中で速やかに分解されます。
- ④ 珪藻類、甲殻類、魚類に対して、ほとんど影響を与えません。

用法・用量

1日1回、魚体重（フグ目魚類）1kg当たり、フェバンテルとして12.5～25mgを飼料に均一に混じて5日間経口投与する。

TEL099-243-6104・FAX099-244-3285

TEL0994-44-9599・FAX0994-43-9085

TEL0996-67-4848・FAX0996-67-4833

TEL0969-23-9075・FAX0969-23-4030

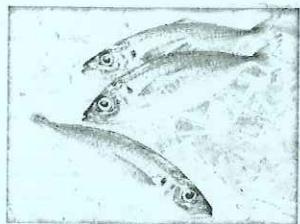
TEL0956-38-6312・FAX0956-38-6500

TEL0972-23-8235・FAX0972-22-3092

TEL0895-20-0154・FAX0895-20-0153

TEL088-880-1131・FAX088-885-1355

TEL088-663-8280・FAX088-663-7015



新入会員企業紹介

■エーブイ商事(株)エンジニアリング部

入会に際してのご挨拶

■日頃よりエーブイ商事取扱商品をご採用いただきまして誠にありがとうございます。
この度NPO法人アクアカルチャーネットワークに加入させていただくことになり、皆様方のご期待に添えますよう、全力を尽くす所存でございます。

エーブイ商事(株)は、皆様方へのご要望にお答えする商品をご提供できますよう、より多くの情報収集に徹し、微力ながら協力できます製品の提供に勤めて参ります。
これからも倍旧のご指導を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

2004年8月吉日
エーブイ商事(株)管材事業部
取締役部長 菊池 和廣

エーブイ商事株式会社

管材事業部 エンジニアリング部

〒818-0074 福岡県筑紫野市塔原南2丁目1-10
TEL092-029-2525 FAX092-929-1055

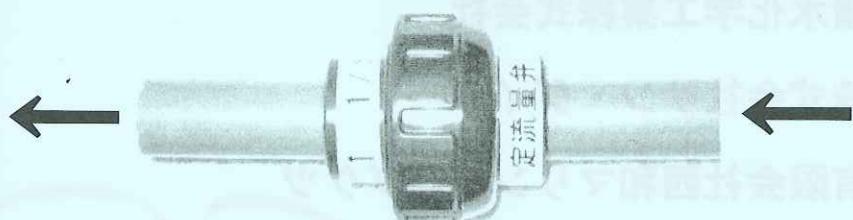
取扱商品

- 塩化ビニルパイプ ■塩化ビニル継手 ■塩化ビニルバルブ ■ポリエチレンパイプ ■ポリエチレン継手
- FRP水槽 ■設計・施工 ■その他設備関係資材



定流量弁 13A (U-PVC製)

飼育水の給水を一定の流量に調整することによって一定の流量が選べます！

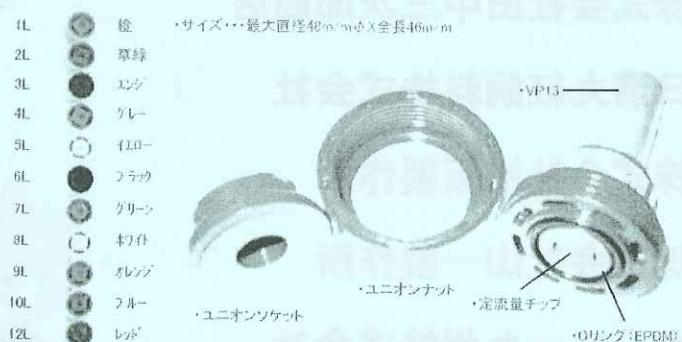


¥3,000円/個 <本体:3,000円/個 チップ:1,000円/個>
(商品には塩ビパイプVP13Aは付いておりません。)

高価なバルブも流量計も不要です。チップを交換することによって一定の流量が選べます。

流量範囲(1L/分～14L/分)

- パイプラインの途中にセットしてもご希望のチップに簡単に交換可能。
- ポンプの圧力によって誤差が生じることもございますが、10%以内に押さえる様に設計されたシンプルな商品です。



株式会社
Iwayamizukoudo

〒838-0141福岡県小郡市小郡1139-1
TEL0942-73-1111 FAX0942-72-1911

(有)アソブシ

〒838-0141福岡県小郡市大保1017-5
TEL0942-75-3667 FAX0942-75-7445

残暑御見舞い申し上げます。

平成16年8月

つくり育てる漁業・人と技術のネットワーク

特定非営利活動法人

ACN

■有限会社アイエスシー

■上野製薬株式会社

■エーブイ商事株式会社

■クロレラ工業株式会社

■積水化学工業株式会社

■株式会社サン・ダイコー

■有限会社西和マリンプロダクツ

■太平洋貿易株式会社

■株式会社田中三次郎商店

■日清丸紅飼料株式会社

■株式会社松阪製作所

■株式会社山一製作所

■ヤンマー九州株式会社

(団体正会員)

